



みなさんは、マジョリティーとマイノリティーの違いは何だと思えますか？「多数派」と「少数派」、あるいは「普通の人」と「特別な配慮を必要とする人」だと認識されることが多いように思います。では、何故、社会では、少数派に対して配慮を必要とする場合が多々あるのでしょうか？それは、多数派はこれまで優先的に保護され、すでに十分に配慮が行き届いているからです。すなわち、「マジョリティー＝すでに配慮されている人」「マイノリティー＝まだ配慮されていない人」と言い換えることができます。

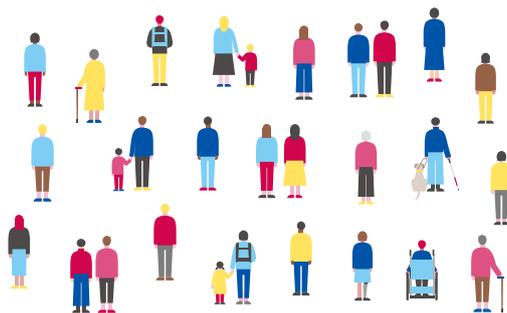
例えば、異性愛者で夫婦同姓を好む人は、法律婚で立場が守られ、諸手当、控除、相続などの恩恵を受けられます。シスジェンダーの人は、迷いなく近くにあるトイレを使うことができます。健常者であれば、誰かに手伝いを頼む必要なく、好きな時に好きな場所に移動できます。

このように、マジョリティーは、周囲の環境が自分に合わせて作られているので、生きるための「労力が少なく済む」立場と言えます。また、差別や偏見の対象とならず、周囲の目を気にせざるを得ない場面や、精神を消耗させられたり抗議の声を上げる必要のある出来事がふりかかることが少なく、心身のエネルギーを自己実現のために使う余裕がより多くあります。このように、たまたまマジョリティーに属していることで得られている優位



THEME

マイノリティー を理解するために、 マジョリティー について考える



性を、「マジョリティーの特権」と呼びます。※1

また、マイノリティーとは単に人数の問題ではありません。女性の人数自体は半数でも、その立場は十分に尊重されておらず（法律、慣習、文化等の面で不利益）、現状において女性という属性はマイノリティー性をもちます。例えば、補助的な仕事は女性の役割と考える人が多い社会では、家事育児介護等のケア負担や職場の雑務が女性に偏り、キャリア形成上の不利益を生じます。痴漢等性犯罪の被害者の9割は女性であるため、住む場所、出かける時間などに、気を遣います。「社会に居場所を得て、自分の能力を活用して貢献する」ために、マジョリティーよりも余分に心身の労力を費やさざるを得ないのが、マイノリティーです。生きるためのコストが異なる両者から見える世界が全く違うものであることは、想像に難くありません。

特権を有する立場の人は、その状態が当たり前と感じられるため、自分が優遇されていることに気づくことは、一般的に困難と考えられます。ですから、特権の存在を可視化・認識し、現状の不平等を認める勇氣を持つことが、DEI社会に向けた第一歩だと思います。また、自分の特権に気づいたならば、その恵まれた影響力を、社会や組織をよりよくするために使うことができる人が増えて欲しいと思います。

※1「真のダイバーシティをめざして—特権に無自覚なマジョリティーのための社会的公正教育」上智大学出版（2017）

WRITER

ダイバーシティ・インクルージョン推進本部
特任教授

長堀 紀子



博士（理学）。およそ10年間ライフサイエンス分野の研究に従事した後、行政機関にて産学連携/パイオ産業支援を経験。2015年より大学で女性研究者支援やダイバーシティ研究環境整備等に携わる傍ら、研究の社会実装を目指して起業（兼業）。

PICK UP BOOK

おすすめの本のご紹介

差別はたいてい悪意のない人がする / キムジヘ (著・文) 尹怡景 (翻訳)

差別はマジョリティーには「見えない」。でも、見えないことは存在しないことではありません。日常に潜む「排除の芽」に気づき、多様性と平等を自分事として考えるエッセイです。



北海道大学は内閣府「女性に対する暴力をなくす運動」に賛同し、下記2件の取組を実施しました。

TOPIC

1

北海道大学古河講堂のパープル・ライトアップを実施

11月18日(金)、女性の人権尊重ならびにハラスメントや差別的言動に対する学内構成員の意識向上を図るため、当該運動のシンボルカラーである紫色で古河講堂をライトアップしました。点灯式では、山口淳二理事・副学長が挨拶で『『人権と多様性の尊重』は、人間社会の基盤であり、大学が真理の探究と知の創成の場であるために不可欠。人権を著しく侵害する『暴力』の問題は早急な対応が必要である。』と話しました。

詳細は
こちらから



www.dei.hokudai.ac.jp/archives/21601/▲



TOPIC

2

安全キャンパスのための護身術講習会 「逃げるための防犯セルフディフェンス術」を開催

12月23日(金)、学内構成員の防犯や護身に関する知識や意識の向上を目的とした護身術講習会を行いました。講師には、総合危機管理アドバイザーのおりえ氏をお迎えし、50名の参加がありました。前半の座学で知識と心得を学んだ後、後半の実技では、手や肩をつかまれた時、抱き着かれた時の対処や声の出し方など、参加者が体を動かしながら「逃げるための護身」を体験しました。

詳細は
こちらから



www.dei.hokudai.ac.jp/archives/21742/▲



COLUMN

THEME

「誰一人取り残さない。誰もが学べる北大にしよう!～合理的配慮について」

教室入口の階段、跳ね上げ固定式の椅子、授業内のディスカッション、紙の教科書、雪道。よく見る光景ですが、障害のある方にとってはどれも「社会的障壁」となりうるものです。たとえば、車いすユーザーの学生は、入口に階段しかない教室には自力で入れません。このような場合、学生からの申請を受け、大学はその学生が授業を受けられるよう「合理的配慮」を提供します。合理的配慮は、障害者差別解消法で規定されている、障害のある学生がない学生と同じように大学で学ぶために必要な変更・調整です。アクセシビリティ支援室は学内の障害学生支援の専門部署

で、合理的配慮申請のサポートに加え、誰もが学べるキャンパスの環境づくりを行っています。

また、アクセシビリティ支援室では、ノートテイク・文献電子化・移動支援等の障害学生支援の一翼を担う学生の有償ボランティアであるピアサポーターも養成しています。あなたもピアサポーターになって、誰もが学べる北大と一緒に作りませんか?興味がある方はアクセシビリティ支援室までご連絡ください。連絡先・詳細はアクセシビリティ支援室ホームページ (<https://www.sacc.hokudai.ac.jp/accessibility/>) をご覧ください。

WRITER



学生相談総合センター
アクセシビリティ支援室准教授
榊原 佐和子

Ph.D.(心理学)臨床心理士・公認心理師・精神保健福祉士
病院、企業、大学等での臨床に従事後、障害学生支援に関わる。現、アクセシビリティ支援室室長。全学教育科目「キャンパス・アクセシビリティ入門」担当。

EVENTS

2.7 Tue. 多様性から価値を生み出すための
コミュニケーション研修
2.14 Tue. 百年記念会館

2.16 Thu. 研究力向上・リーダー育成セミナー 第3回
オンライン(全3回シリーズ) 言語英語

2.27 Mon. KNIT共同研究交流発表会
オンライン

CONTACT US



北海道大学
ダイバーシティ・
インクルージョン推進本部
Office of Diversity, Equity,
and Inclusion



公式ウェブサイト
www.dei.hokudai.ac.jp

〒060-0812
札幌市北区北12条西7丁目
北海道大学
中央キャンパス総合研究棟1号館1階

TEL — 011-706-3625
Email — office@dei.hokudai.ac.jp